Hospital & Clinic

札幌北楡

腎臓病総合医療センター開設
各科と連携　SDM実践

白石区の札幌北楡病院（米川元樹理事長、目黒順一院長・281床）は、腎臓病総合医療センターを開設した。各種腎疾患治療を統合するとともに、各診療科との連携を強化、Shared Decision Making（SDM）の実践で、患者とともに治療を決める医療を推進している。

同病院は、腎臓病治療に力を入れており、開設時から腎臓移植を行っている。2009年には選任医師を迎え、腎臓移植外科を開設。10年には腎臓内科を開設するとともに、専任移植コーディネーターを配置した。

血液透析は、入院患者専用のセンター（14床）と、外来患者専用のセンター（79床）を運用。血液中の病因物質を除去するアフェレシス治療も行っている。

4月には、函館五稜郭病院で道南唯一の腎臓内科を運営し、急性腎障害をはじめ、慢性腎機能障害の保存期治療、腎代替療法などを手掛けてきた、吉原真由美医師が着任。腎臓病の初期段階からの診断・治療体制が整ったこともあり、これまで行ってきた各種腎医療を統合し、センター化した。

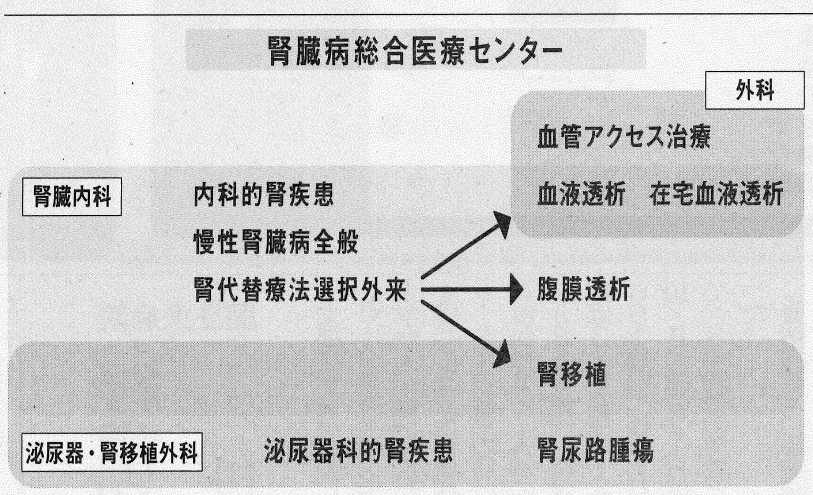
国内での透析は、血液透析が9割以上を占め、腹膜透析の導入数は海外に比べて圧倒的に少ない。認知度が低く、医療者側にも正しい知識と理解が足りないため、患者に腹膜透析を選択肢として提示できないのが実情だ。

吉原医師は、「高齢だから難しいなどと不安を抱くケースもあるが、訪問看護などさまざまな医療資源を活用し、医療者側もしっかりとフォローできれば、より多くの人で腹膜透析は可能」としており、これまでの経験を生かし、積極的に取り組んでいく考えだ。

腎移植についても、腹膜透析と同様、「自分には難しい」といった先入観が強く、正しい理解が進んでいない。

センター設立と同時に腎代替療法選択外来も開設。患者の状態や生活、希望等に合わせて、さまざまな診療科と連携しつつ、医療者と患者が情報を共有し、腹膜透析や腎移植も含め、一緒に治療を考えるSDMの実践を目指す。

患者の全般的なケアを担当する看護師の役割が大きいことから、育成を進めているほか、管理栄養士、薬剤師も含め、患者を中心に診療科や部署を超えた連携体制を構築。「患者・家族だけでなく、地域のかかりつけ医からの相談にも積極的に応じていきたい」と三浦正義副センター長は話す。



組織図

難治性過活動膀胱等に新治療導入
泌尿器科診療の質向上へ
製鉄記念室蘭

室蘭市の製鉄記念室蘭病院（松木高雪理事長、前田征洋院長・347床）泌尿器科は、難治性過活動膀胱に「ボツリヌス毒素膀胱内注入療法」を導入するとともに、間質性膀胱炎（ハンナ型）にも新たな薬物治療を開始。胆振、日高管内初となる治療法を取り入れ、地域における泌尿器科診療のレベルアップを図っている。

尿漏れや頻尿を引き起こす過活動膀胱の治療法は、一般的に排尿を我慢する膀胱訓練や、骨盤底筋体操などの行動療法、内服による薬物療法が行われるが、十分に効果が表れない症例も見受けられる。

2020年4月に、ボツリヌス毒素注入療法が保険適用されたことを受けて、立木仁泌尿器科部長のもと、多職種が連携して導入に向けたシミュレーション重ね、6月から治療を開始した。

新たな治療法は、行動療法と薬物療法を12週間続けても症状が改善しない難治性の患者が対象。また、治療後に一時的にうまく排尿できないケースに備え、自己導尿ができることも求められる。

尿道から内視鏡を挿入し、膀胱内の20～30カ所に医薬品として生成されたボツリヌス毒素を注射し、30分程度で終了する。治療後は5～6割の患者に、尿回数と尿失禁の減少がみられるという。

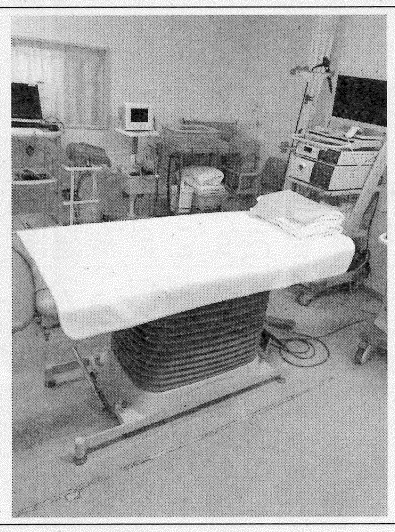
同病院は2019年3月に、胆振、日高管内初となる手術支援ロボット「ダビンチXi」を導入。泌尿器科では、前立腺全摘除術をはじめ、小径腎癌に対するロボット支援腎部分切除術、膀胱全摘除術などを実施している。

医師の増員による治療の拡充や紹介患者の急増などで、21年4月の1日当たり平均患者数は、19年の42・6人から48・4人へと伸び、西胆振全域の患者ニーズが高まっている。

5月には、希少疾病の一つとされ、間質性膀胱炎の中でも治療法が確立されておらず、国内の患者数が約4500人と推計されるハンナ型に対し、4月に保険適用された新しい薬物治療「ジムソ膀胱内注入療法」も開始した。

同療法は、膀胱に尿道カテーテルを挿入し、ジメチルスルホキシド溶液を1回当たり1バイアル50㎖、2週間間隔で、6回1セットで注入する。

立木部長は、「大規模な治験を通じて保険適用になった、高い効果が期待できる最新治療を、症状に悩む患者に広く実施したい」としており、西胆振地域全体を見据えた泌尿器科疾患のさらなる治療強化を目指す考えだ。


ボツリヌス毒素膀胱内注入療法は手術室で行い、30分ほどで終了する

豊生会ヘルスサポートセンター元町
自主的健康管理を支援
血液検査・予防接種など実施

東区の豊生会元町総合クリニック（星野豊理事長、池田慎一郎院長・無床）内にあるヘルスサポートセンター元町は、血液検査や各種注射を気軽に受けられる環境を整備。外来患者と動線を分けた空間を生かし、新型コロナワクチン接種を積極的に実施するなど、自発的な検査につなげたい」と池田院長は話す。

「注射Bar」は、にんにく注射をはじめ、二日酔い対策、脂肪燃焼、ビタミンなど疲労回復・健康管理のための注射を実施。「ドクターズコスメ」は、シミ取り効果が期待できるなど、人の口コミ効果が高くスポーツジムに通っている人が、脂質だけ検査して運動の成果を評価するなど、自発的な検査につなげたい」と池田院長は話す。

「注射Bar」は、にんにく注射をはじめ、二日酔い対策、脂肪燃焼、ビタミンなど疲労回復・健康管理のための注射を実施。「ドクターズコスメ」は、シミ取り効果が期待できるなど、人の口コミ効果が高くスポーツジムに通っている人が、脂質だけ検査して運動の成果を評価するなど、自発的な検査につなげたい」と池田院長は話す。

アレルギー検査と多様なメニューをそろえた。肝機能はGOT・GPT・γ―GPTなど、1項目に3種類の検査が含まれ、動物上皮セットは犬・猫・鳥など動物アレルギーの有無を検査し、ペットを飼う前に多くの人が利用している。

医療機関の血液検査は初診料に加え、検査内容が多いため1回の費用が

現法人名に改称して今年で10年の節目を迎えた。新たな10年に向けて、診療体制のさらなる拡充を図るため、新年度から各種の計画

院長訪問

設しており、難治性の肝胆膵をはじめ血液、乳腺などのがん患者さんを多く受け入れています。新病院には高度な検査や治療ができ

大第四内科（現腫瘍内科）を経て、2013年から同院で勤務。専門は肝臓内科、消化器疾患全般。1日に院長代行から院長に就任し

開業案内

（かっこ内は管理者）

▼活き粋在宅クリニック真栄診療所（斉藤厳）札幌市清田区真栄1条2丁目24―3。内科、緩和ケア内科、精神科。無床。☎011（375）7877※医療法人社団向日葵活き粋在宅クリニック

▼ひつじがおか皮フ科リニック（萩原千也）札幌市豊平区月寒東1条19丁目1―21。皮膚科。無床。☎011（851）1215

▼ソフィア北円山クリニック（福井里佳）札幌市中央区北4条西18丁目8―1。乳腺外科、婦人科、眼科、小児科、内科。無床。☎011（624）8370※社会医療法人社団カレスサッポロ

▼東苗穂すみれ眼科（神原啓輔）札幌市東区東苗穂2条3丁目1―1イオンモール札幌苗穂2階。眼科。無床。☎011（738）8277※医療法人社団憲幸会

▼みんなの函館クリニック（三木誓雄）函館市日吉町4丁目16―21コンテ日吉4号室。内科。無床。☎0138（83）7630※医療法人社団碧水会

▼いいだメンタルペインクリニック（飯田高史）旭川市宮下通9丁目2―17ツルハビルディング2階。精神科、心療内科、ペインクリニック内科、麻酔科。無床。☎0166（21）7011

医療新聞 FILE

医師等の働き方改革の推進に係る評価等に関する実施状況「医師調査③」

中央社会保険医療協議会　資料